



ここまでの外気温・現地の花芽の大きさ等を考慮すると、発芽等の初期生育は昨年より進むと予想されます。生育が大きく進む年ほど、休眠期防除や開花前管理作業等が遅れる傾向です。現状の生育状況をよく観察し、特に本年は早めの剪定・管理作業・薬剤散布を徹底してください。

■ 南水発芽調査（調査地点：田麦沖）

年度	平年	H26	H27	H28
発芽期	4/8	4/10	4/3	3/28頃

■ 和梨 発芽前の散布（石灰硫黄合剤体系とキノンドーフロアブル体系を記載しています。下記を読み、どちらかを選択してください。）

～キノンドーフロアブル体系～

散布時期：発芽直前（3月中下旬）

散布薬剤：水 98^{リットル}
キノンドーフロアブル 100ml
スプレーオイル 2^{リットル}

対象病虫害：黒斑病、ハダニ類、カイガラムシ類他

散布量：10a 当り 300^{リットル}

散布日	月	日
散布量		リットル

■ キノンドーフロアブル体系注意事項

- ① 温暖・無風の時に散布する。
- ② せん定の切り口（傷跡）には必ずトップジンMペーストを塗る。
- ③ キノンドーフロアブルにスプレーオイルを加用し、よく攪拌する。
- ④ カイガラムシ類の寄生が多い園は、今回の散布前に金ブラシ等で削り落しを行う。

～石灰硫黄合剤体系～

散布時期：発芽直前（3月中下旬）

散布薬剤：水 88^{リットル}
スプレーオイル 2^{リットル}
石灰硫黄合剤 10^{リットル}

対象病虫害：ハダニ類、カイガラムシ類他

散布量：10a 当り 300^{リットル}

散布日	月	日
散布量		リットル

■ 石灰硫黄合剤体系注意事項

- ① 温暖・無風の時に散布する。
- ② せん定の切り口（傷跡）には必ずトップジンMペーストを塗る。
- ③ 石灰硫黄合剤は隣接するハウスビニールには極力かからないようにする。
- ④ スプレーオイルに石灰硫黄合剤を加用し、よく攪拌する。
- ⑤ カイガラムシ類の寄生が多い園は、今回の散布前に金ブラシ等で削り落しを行う。



発芽期
樹全体で紅葉後の枝
～葉の生い茂るまで
開花、緑化が認めら
れる日。

■ 和梨 発芽7日後の散布（りん片脱落直前）

散布時期：りん片脱落直前（4/5～10頃）

散布薬剤：水 96.7^{リットル}
ic ボルドー48Q 3.3kg

対象病虫害：黒斑病、黒星病

散布量：10a 当り 300^{リットル}

散布日	月	日
散布量		リットル

■ 注意事項

- ① 散布時期が遅れた場合や散布直後に降雨があると薬害を生じることがあるので注意する。
- ② 収穫中の作物への飛散に充分注意する



りん片脱落期
樹全体で紅葉後の花
芽のりん片が20～30
%脱落した日。

西洋梨

■ ラ・フランス発芽調査（調査地点：田麦沖）

年 度	平年	H26	H27	H28
発 芽	4/7	4/9	4/2	3/28 頃

■ 西洋梨 発芽前の散布

石灰硫黄合剤体系とトップジン M 水和剤体系を記載しています。下記を読み、どちらかを選択して下さい。

～石灰硫黄合剤 体系～

1. 散布時期：発芽前（3 月中下旬）

2. 散布薬剤：水 88 リットル

 スプレーオイル 2 リットル

 石灰硫黄合剤 10 リットル

3. 対象病害虫：ハダニ類、カイガラムシ類
腐らん病、胴枯病

4. 散布量：10a 当り 300 リットル

■ 石灰硫黄合剤体系注意事項

① 石灰硫黄合剤は隣接するハウスビニールには極力かからないようにする。

② 天気の良い温暖・無風の日を選び、幹・枝に丁寧にたっぷりと散布する。

③ スプレーオイルに石灰硫黄合剤を加用し、よく攪拌する。

④ カイガラムシ類の寄生が多い場合は、今回の散布前に金ブラシ等で削り落としを行う。

散布日 月 日

散布量 リットル

～トップジンM水和剤 体系～

1. 散布時期：発芽前（3 月中下旬）

2. 散布薬剤：水 98 リットル

 展着剤 10ml

 トップジンM水和剤 100 g

 スプレーオイル 2 リットル

3. 対象病害虫：ハダニ類、カイガラムシ類
腐らん病、胴枯病

4. 散布量：10a 当り 300 リットル

■ トップジン M 水和剤体系注意事項

① 天気の良い温暖・無風の日を選び、幹・枝に丁寧にたっぷりと散布する。

② トップジン M 水和剤にスプレーオイルを加用し、よく攪拌する。

③ カイガラムシ類の寄生が多い場合は、今回の散布前に金ブラシ等で削り落としを行う。

散布日 月 日

散布量 リットル

■ ナシ類 3 月の重点管理作業

1. 粗皮けずり

輪紋病の源となるいぼ皮や粗皮（リンゴハダニ等の住处）を削り取る等の耕種的防除を実施してください。輪紋病多発園では本格的な生育期に入る前の早い時期にいぼ皮削りを進めてください。

2. 腐らん病・凍害対策

本年は腐らん病が早期発生傾向です。病斑を見つけ次第、削り取りを行い、癒合剤を塗布してください。また、凍害（胴枯病・紫変色枝枯症他）防止のため、主幹部等にできた大きな切り口（直径 5 cm 以上）には必ず癒合剤を塗布ください。3 月以降の低温遭遇により凍害の発生が助長される傾向にあります。注意してください。

3. 花芽整理（南水の芽すぐり）

南水の花芽過多が散見されます。剪定作業と並行して、花芽整理を積極的に行ってください。1 短果枝群につき 2 芽程度に整理し、芽の向きはなるべく外に広げるようにしてください。（詳しくは講習会に参加してください。）

4. 枝の誘引

次年度の花芽形成促進や側枝の強樹勢化を防止するために、剪定作業と並行して誘引作業の必ず実施してください。樹が硬く折れやすい品種は、発芽期以降実施してください。

5. 春先の苗木の植え付け

土壌が乾燥する春先の苗木植え付け時は、根と土が十分馴染むようにかん水してください。併せて、敷きワラマルチ等をするとその後の乾燥防止に役立ちます。また、支柱等を立てて風等による倒伏を予防してください。